

## 1923 年関東地震による埼玉県春日部市の被害状況を解明！

～中学 1 年生部員へと引き継がれた「歴史地震研究」のバトン～

理科研究部では、「10 年をかけて埼玉県内に残る 1923 年関東地震の記録を網羅的に調べ尽くす」ことを目標に、2013 年度に現・大学 1 年生の石黒先輩が「さいたま市に残る石碑」の調査に取り組み、2015 年度までに 2 本の論文を完成しました（学術誌『歴史地震』第 29 号・第 30 号に掲載）。継続研究として、2015 年度からは、埼玉県内の春日部市・杉戸町・幸手市の石碑調査に着手したところ、春日部市には予想していた以上に多くの被害の記録が残っていて、2016 年度には春日部市に調査範囲を絞りました。そうしているうちに、中心になって取り組んできた現・高校 3 年生の生徒たちは、大学入試を控えて引退となり、新入生が入部する季節となりました。なんと、この歴史地震の研究を引き継いだのは、中学に入学したばかりの 1 年生 3 人でした！取り組んだ理由は、「小学生の頃から地震に興味があったから」、「同級生の熱意につられて」と、さまざまです。

春日部市には、6 か所の寺社に震災に関して記されている石碑が見つかりました。さらに、春日部市郷土資料館に、そこにだけ収蔵されている生の資料があることを知りました。10 月 29 日には、4 人で訪問し、『大震災記念児童文集』を調査させて頂きました。そこで、多くの児童が「地元の小学校の新校舎が崩れてしまった」などと作文に残されていました。しかし、作文には、「朝鮮人がピストルで人を撃ったという噂がながれたため、無差別に朝鮮人が殺された」ともあったため、**なぜ地震が起きた時にこのようなことが起こったのか**と疑問に思いました。合わせて、春日部市郷土資料館では、地震による被害の光景を写した『大正十二年震災写真帳』も提供頂きました。これらの成果は、『歴史地震』第 32 号に投稿しています（査読中）。

中学 1 年 篠田海遥・野間鉄心・鈴木隆仁、 高校顧問 荒井賢一



春日部市郷土資料館で『大震災記念児童文集』の閲覧調査（接写）に取り組んでいる中学 1 年生の 3 人